

## 身近な環境や季節への気付きを育てる授業について

Lecture about Bringing Close Environment  
and Season to Student Notice

開 仁 志

HIRAKI Hitoshi

## I 目的

幼稚園教育要領第1章総則、1 幼稚園教育の基本には、「幼稚園教育は、学校教育法第77条に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」とされている。

2 幼稚園教育の目標（3）では、「自然などの身近な事象への興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の芽生えを培うようにすること」とあり、その目標に対応して、第2章ねらい及び内容の中で、領域「環境」が取り扱われている。

そのねらいには、「（1）身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。（2）身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。（3）身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。」とある。

このねらいを達成するために、幼稚園教諭は、「計画的な環境構成」、「幼児一人一人の活動の場面に応じて、様々な役割」を果たさな

ければならないとしている。

以上のことから、幼児教育においては、環境がとても重要な位置を占め、その教育を担う幼稚園教諭には、環境を構成していく力が求められていることがわかる。

ここで、幼稚園教諭を養成する本学の学生の実態を顧みると、学生にとって身近な環境であるはずの短大自身のことをよく知らなかったり、周りの自然や季節の移り変わりを感じる機会があまり持たれなかったりしているように感じる。

具体的には、自分の所属する学科の棟での科目が中心のため、他の学科の棟を訪れたことが無い学生や、本学の中庭にある花壇の存在に気付いていない学生がいることが挙げられる。

また、短大の授業はシラバスによって行われるが、伝えるべき内容をもとに作成されるため、授業実施の時期については、四季、年中行事、気候などとは必ずしも合致していない実状がある。

幼児が身近な環境に親しみ、自然と触れ合う体験をもつことができるように援助していくには、幼稚園教諭を目指す学生自身が、身近な環

境とかかわり、季節の移り変わりなどに気付くことができるような体験をする必要性があると感じる。

このことから、授業の中に、身近な環境や季節の移り変わりを感じることができるような体験的活動を取り入れ、その中で、学生達が、どのような気付きをしていったのかを明らかにする。

## II 方法

身近な環境や季節への気付きを促すことをねらいとした授業を実施し、学生の姿の観察、感想から、その影響を考察する。

## III 内容

- 1 子どもの目線になり、短大周辺を探索  
教育原理で実施  
2006年4月21日 1年3組  
2006年4月21日 1年4組
- 2 グループごとに共同でこいのぼり制作  
保育原理Ⅱで実施  
2006年4月24日 2年4組  
2006年4月27日 2年3組
- 3 短大を探索し、環境改善アイデア提出  
保育原理Ⅱで実施  
2006年5月22日 2年4組  
2006年5月29日 2年3組
- 4 七夕飾りの製作、飾り付け、劇の発表、  
浴衣で写真撮影  
教育原理で実施  
2006年7月7日 1年3組  
2006年7月7日 1年4組  
保育原理Ⅱで実施  
2006年6月12日 2年4組  
2006年6月15日 2年3組

- 5 クリスマス用ステンドグラスの共同製作、  
幼児を招待してプレゼント渡し  
保育者論で実施

2005年12月2日 2年4組

2005年12月2日 2年3組

## IV 結果及び考察

- 1 子どもの目線になり、短大周辺を探索

授業の導入として、「子どもは大人より背が小さいので、目線が違い、見える物が変わってくる」ことを伝え、30分間、短大周辺の環境をしゃがみながら子どもの目線になり観察し、そこで気付いたことを集合してから発表する課題を出した。

学生が子どもの目線になって気付いた内容は以下のようなものである。

- (1) 子どもの目線だと、車がとても大きく見える。逆に、車を運転しているとき、子どもを見つけにくい。
- (2) 目線が地面に近いので、落ちている物をよく見つける。棒きれや小石などを拾いたくなる気持ちがわかった。
- (3) 雑草だと思っていたが、よく見ると、かわいい花が咲いていたので積んでみた。においを嗅いでみるとよい匂いがした。
- (4) 生け垣の所に、蜂の巣が見えた。こんな所にあるとは知らなかった。
- (5) 木陰に隠れているへびを見つけてびっくりした。

子どもの目線になってみることで、普段何気なく通り過ぎるだけの風景が、変わったものに見えることに気付いたようである。子どもから見ると世界は大きく見えること、子ど

ものが落ちている物をよく拾ってくる理由など子どもの気持ちの理解につながるような感想を持った学生もいる。視点を変えることで、身近な環境を注意深く見てみようという意識が働いていると言えよう。



図1 地面をよく観察する



図2 季節の花の匂いをかぐ

## 2 グループごとに共同でこいのぼり制作

5月5日の子どもの日に向けて、こいのぼりを製作する課題を出した。保育現場では、季節にちなんだ製作がなされることが多い。実際に学生が製作することで、季節感を味わい、行事の意味を知ることにもつながると考えた。

また、一人一人製作するのではなく、グループに分かれ、共同製作することを課した。そのことで、役割分担をしたり、イメージを話し合ったりする大切さを感じとってほ

しいと考えたからである。

また、作品が完成した後は、実際に保育現場に飾られるようにと考え、付属みどり野幼稚園に依頼し、飾ってもらった。そのことで、製作して終わりというのではなく、学生達が自分たちの活動がどう子ども達の生活に生かされているかを実感してもらいたかったからである。

学生達は、グループごとに作業の分担の仕方や、製作するこいのぼりに対するイメージの違いが見られ、個性的な作品に仕上がった。

具体的には、目の製作、うろこの製作、できた目やうろこの貼り付けなど分担をして、仕上がり早いところもあれば、なかなか、どのようなこいのぼりにするかのイメージがまとまらず、時間がかかったグループが見られた。

このような経験は、実際に幼児に共同製作を進めるときに起こる過程を、自分たち自身経験する機会となると考える。例えば、イメージがなかなかまとまらないグループには、どのような援助が必要かなど自らの経験から考えることができるきっかけになるであろう。

完成した後は、付属みどり野幼稚園に学生



図3 付属みどり野幼稚園に飾られたこいのぼり

が持参し、幼児にプレゼントした。幼児は、手作りのこいのぼりを見て歓声を上げ、こいのぼりを追いかける遊びや中に入って遊ぶ姿が見られた。学生達は、自分たちが製作したこいのぼりを喜んでくれる幼児の姿を見て、「作ってよかった。」「あんなに喜んでくれると思わなかった。」「こいのぼりの中に入ろうとする子どもにはびっくりした。」などといった感想を述べ、授業の中だけでは味わえない生の幼児の姿を見ることができた。

### 3 短大を探索し、環境改善アイデア提出

「環境について考えてみよう（富山短大を例に）」と題して、短大の環境についての改善アイデアを出す課題を与えた。保育における環境を構成する前に、実際の自分たちの身の回りの環境に気付き、改善していく力が必要であると考えたからである。

留意点としては、①私語厳禁、隣の人と相談しない、自分なりの視点をもつこと。②お金を出せばすぐに解決できるものではなく、自分たちの工夫改善によって見直しができるものに限定（例えば、建物が古いので新しく建て替えるなどは、認めない）の2点を伝えた。自分で課題を見つける力と、自分なりに課題を解決する手段を考える力を養うことをねらいとしたからである。

以下に、短大の環境を、よいと思われる点と改善が必要とされる点に分けて、学生の気付きを挙げる。

#### 短大の環境でよいと思われる点

- (1) 付属みどり野幼稚園が近接していて、子どもの姿が見えたり、触れ合ったりすることができる。

- (2) ピアノ練習の個室があり、集中して取り組める。
- (3) カウンセリング、医者の方が週1で訪れ、悩みを相談しやすい。
- (4) コンビニがあり、便利。
- (5) 食堂が利用しやすい。きれい。
- (6) 駐車場が多く、2年生が全員駐車できる。
- (7) 緑が多く、四季を感じることができ
- (8) 清掃の方がおられて、建物の中がきれい。感謝したい。
- (9) 掲示板で、今後の予定や企画を自由に見ることができる。
- (10) 屋根があって風雨をしのげる渡り廊下。
- (11) 幼児教育系の本がB棟においてあり、見やすい。
- (12) 喫煙室の確保、禁煙ポスターがよい。
- (13) ゴミ箱が様々なところにあり、便利。
- (14) 西日が当たらない。
- (15) 図工で製作した物の展示が幼児教育学科らしく、参考になる。
- (16) 食堂に緑があり癒される。
- (17) 階段の途中にある鏡が、自分の笑顔の練習になる。
- (18) 廊下に椅子が置いてあり、座りやすい。
- (19) 階段の部分に窓があると、少しでも外の自然を眺められてよい。
- (20) 渡り廊下の鉄柱がカラフルで楽しめる。
- (21) トイレが清潔。
- (22) バリアフリーが設けてある。
- (23) 図書館の書籍数が多い。
- (24) 絵画がかけてあり、潤いがある。
- (25) 廊下にボランティア募集が貼ってあり、参加しやすい。



- (26) 教室、食堂に水道があり、衛生的。
- (27) 授業中の席が決まっているので、集中して授業を受けられる。
- (28) 施設や幼稚園の便りが貼ってある。
- (29) 一斉メールがあり、情報が伝わりやすい。
- (30) 黒板が湾曲になっていて、あまり光が反射せず、見やすい。
- (31) B201の前に絵本が置いてあり、親しめ感性が磨かれる。
- (32) 新聞が貼ってあり、他の学科の様子がわかる。
- (33) 教室の両側に窓があり、風通しがよい。
- (34) 大きな道路に面していないので、騒音が無い。
- (35) 先生方の研究室の前に「不在」などの印があり、わかりやすい。
- (36) 就職の情報を得やすい。
- (37) 福祉学科の掲示が分類してあって見やすい。
- (38) 保健室が使いやすい雰囲気。
- (39) 福祉学科は、卒業生や在学生からのメッセージがあり、励まされる。
- (40) 福祉棟は、傘置きがある。
- (41) トイレに花が飾ってあってよい。
- (42) 戸がスライド式だと、ぶつからない。
- (43) 児童の権利に関する条約が廊下にかけてあり、勉強になる。
- (44) 入り口にマットがあり、滑らない。
- (45) 写真が貼ってあり、思い出がよみがえり、会話が生まれ、和やかになる。
- (46) 階段に手すりがついている。
- (47) 警備の方がいて、安心。
- (48) 黒板がきれいに消されており、豊かな気持ちになる。

- (49) 止まれの標識があり、車に気を付ける。
- (50) 福祉棟は、ペットボトルの分別もある。
- (51) 食物栄養学科に休憩室がありよい。
- (52) 音楽室の壁に音符があり、雰囲気がある。
- (53) 食物栄養学科で、トマトを作っており、自分で作って食べる楽しさが味わえる。
- (54) 福祉学科は、日直制になっていて教室を管理している。
- (55) 調理室は、スリッパがあり、清潔。

#### 改善が必要とされる点

- (1) 中庭の花壇の手入れをする。
- (2) ロッカーの間が狭いので、スペースの確保。
- (3) 図書館の勉強スペースを端に寄せ、集中できるようにするとよい。
- (4) 合同の授業では、資料があるので、隣の人と密接しないスペースがあるところで行って欲しい。
- (5) 保健室前の中庭を全学科から見えるようにして、手入れをしたり、有効利用したりする。
- (6) テラスを掃除する。
- (7) 段差が多い。(幼児教育学科の入り口、食堂、コンビニの近くの戸。)
- (8) B210には防音設備が無いので、音楽室に移動する。
- (9) 体育館までの廊下が暗いので、窓を付けて欲しい
- (10) 食堂の机と机の間隔を空けて欲しい。
- (11) マイクのノイズがひどい、メンテナンスの必要。
- (12) 無駄な機材の撤去。
- (13) 時計が無い教室に設置。

- (14) 冬になると、C301の暖房が5限になると切れている気がする。
- (15) B208をもっと活用する。
- (16) コンビニの時間の延長。
- (17) 図工室の近くの入り口は、冬滑りやすい。
- (18) 食堂のお茶を、夏は冷たく、冬は温かくしてほしい。
- (19) 学生ホール前のトロフィーなどをもっと目立つようにする。
- (20) 幼児教育学科をもっと幼児教育学科らしくする。
- (21) パソコン室の使用を延長。
- (22) 学生会の場所をわかりやすくする。
- (23) 季節にあった絵を飾って欲しい。
- (24) コインロッカーをもっと活用しやすくする。
- (25) 掲示板を整理して見やすくする。
- (26) 休憩時間に音楽が流れれば、落ち着いた雰囲気になる。
- (27) 中庭に日陰があったら、晴れの日外に出やすい。
- (28) 教室に装飾をつくれば、勉強になる。
- (29) 図書館、コピー機の時間の延長。
- (30) B棟のトイレを両開きだと廊下の人にぶつかるので、片開きにする。
- (31) トイレ以外にも洗面所が欲しい。
- (32) 学生が悩みや希望を書けるBOXを作る。
- (33) 公衆電話を増やして欲しい。
- (34) 黒板消しをきれいにするクリーナーが作品の横にあるので、ずらせばよい。
- (35) 屋上を活用したい。
- (36) B210など、出入り口が前にあると、授業中出入りする人が多く集中しにくい。

- (37) 食堂の机が汚いので、ふきんを準備する。
- (38) 2年生の掲示板があまり通らない場所なので、1階に貼って欲しい。
- (39) 夏にB棟のシャワーを使いたい。
- (40) 全体のマップをわかりやすくして欲しい。
- (41) ビデオの使用の仕方など、手順を描いておくとスムーズ。
- (42) プリント印刷を両面にして環境に優しく。
- (43) 教室の周囲に使っていない椅子や机が置いてあるので危険、片付ける。
- (44) 非常時の避難経路を示す。
- (45) 学生がよく通るところに駐車場があり、危険。
- (46) A棟の掲示板、学科や教科別に並べて欲しい。
- (47) 更衣室に鍵を付けて欲しい。
- (48) 正門が学校のイメージを決めるので、花や木を植えて明るくして欲しい。
- (49) 男子更衣室を作る。
- (50) 1年と2年の教室が遠く、交流しづらい。
- (51) ロッカーの上を整理整頓する。
- (52) 授業終了のチャイムも鳴らして欲しい。
- (53) 夜になると、駐車場が真っ暗なので、街灯をつけてほしい。
- (54) プランターなどに、季節の花を植える。
- (55) 掲示してある作品の破損、汚れがあるので、改善する。
- (56) 喫煙室内のポスターは、防火上危険。外に貼る。

学生達は、自分たちが生活する身近な環境で

ある短大について、様々な気付きをしていることがわかる。衛生・安全、美的環境、自然、生活を支えている人々への感謝など多岐に渡る感想がある。

また、幼児教育学科だけではなく、他学科を訪れたことで、そのよさを取り入れる発想が生まれている。このことは、将来、身近な人や環境、例えば先輩保育者などから、よいところを自分なりに探し、取り入れ、向上していく姿にもつながると考える。

#### 4 七夕飾りの製作、飾り付け、劇の発表 浴衣で写真撮影

2005年から実施して、2006年は2年目の実践になる。1年目は、保育実習後に行ったが、2年目は、授業で七夕飾りの作り方、飾り方を身につけた後、保育実習に行くことが



図4 七夕飾りを作る



図5 七夕ロードで浴衣の集合写真

できるように、実施時期を早めた。そのことで、実際に七夕飾りを保育実習で幼児と共に製作し、飾ったときに、この授業が役だったという学生の声が聞かれた。

実施内容としては、七夕の由来を伝えた後、実際に様々な七夕飾りを製作する。製作した後、本学食堂ホール横の渡り廊下に飾る。飾りをつける筐は、論者が自宅から持参した。飾りつけをした渡り廊下を、「七夕ロード」と名付け、通る人々にも季節感を味わってもらうこともねらいとした。短大のオープンキャンパスで、訪れる高校生目の目にも触れるようにしてあり、季節感を大切にしていることのアピールにもなっていると考え

る。1年生は、七夕の願いを書き、付属みどり野幼稚園で、七夕にちなんだオリジナルストーリーの劇を行った。衣装や音楽なども学生が用意した。授業以外にも意欲的に準備を進める姿が見られた。幼児達は、劇が終わった後も、役をしていた学生に、「一緒に遊んで。」と呼びかけ、親しみを持った印象を受けた。

2年生は、さらに、浴衣を着て集合写真を撮影した。2年生約100名のうち、半数近くが浴衣を着て撮影に臨み、その姿を見て、1年



図6 付属みどり野幼稚園での七夕劇

生も、「来年は浴衣を着てみたい。」という声が聞かれた。

付属みどり野幼稚園では、七夕の時期に毎年、子どもまつり（保護者が主催し、出店などを出す夏祭りの企画）も行われる。短大の取り組みと連動し、雰囲気が盛り上がるように、今後も相談し、よりよいかたちにしたいと考えている。

以上のように、七夕関連の授業を行うことで、季節感があまり感じられない短大の環境が少しずつ変わった印象を受けた。2006年は、他学科でも、七夕を飾る部屋が見られた。このような取り組みをきっかけに、様々な所で、季節感を感じることができるよう環境が増えると、学生の感性も磨かれるのではないかと考える。

#### 5 クリスマス用ステンドグラスの共同製作、幼児を招待してプレゼント

12枚で1作品になるようなステンドグラス作成を課題とした。1人につき、A3サイズの黒画用紙を配布し、セロファン、色紙などを切り張りし、ステンドグラスを制作する。制作後は、ラミネートし、12枚を貼り合わせて、幼児教育学科棟の2階、ガラス面に飾った。他学科からも見える場所であり、幼児教育学科以外の学生にも、季節感を味わって欲しいという願いから、場所を選択した。

その後、ステンドグラスをデジタルカメラで撮影し、L判写真の大きさにしたカードを作成した。その後、学生がサンタクロースに扮し、短大に招待し、付属みどり野幼稚園の幼児にカードをプレゼントした。

学生は、自分たちが制作したステンドグラスを幼児に見てもらい、さらに、カードとし



図7 共同で作成したステンドグラス



図8 付属みどり野幼稚園児にクリスマスプレゼント

てプレゼントしたことで、幼児の喜ぶ姿を見て、充実感を味わっていた。このように授業で行ったことが、実際に幼児に影響を与え、実践につながる経験をすることは、学生の意欲向上にもつながると感じる。

#### V まとめ

短大には、ポプラの木や、中庭の花壇、ドングリの木などの自然環境が豊かである。また、隣には付属みどり野幼稚園が存在し、季節感を大切にした保育を行っている。

しかし、学生達は、自分たちの身の回りにある身近な環境に目を向け、季節の移り変わりに気付くような時間をとることがあまり見られなかった。

しかし、授業の中で、身近な環境への気付き



を促す課題を出したり、季節感を味わえるような行事を組んだりすることで、徐々に学生達の姿が変わってきたようである。周囲の環境を漠然と見るのではなく、注意して観察していることが、感想から読みとることができる。

学生の中に活性化されないまま眠っている感性を呼び起こすきっかけとして、様々な授業で働きかけていくことが、将来、身近な環境や季節へ気付くことができる保育者になるための大切な援助になると考える。

今後の課題としては、季節感を大切にするためには、どうしても時期ということ进行を避けることができないので、タイミングを逃さないために、様々な授業の中で活動をしなくてはいけなくなる点である。今回は、論者が担当している「教育原理」、「保育原理Ⅱ」、「保育者論」などの一部の授業時間を活用した。

幼児教育で大切にされる「遊び」は「総合的に指導」されるものなので、授業科目にとらわれることなく総合的にとらえたカリキュラムの編成を考え、身近な環境や季節への気付きを促すことができるように、体験的な活動を授業に取り入れていく必要性を感じる。

